

NAA NEWSLETTER

Vol.19 2008 SPRING

NODA
ARCHITECTURAL
ASSOCIATION

東京理科大学理工学部建築学科同窓会 野田建築会

The Alumni Association of Science University of Tokyo since 1998.
NODA ARCHITECTURAL ASSOCIATION

井口道雄教授 退官記念寄稿

本年度で理工学部建築学科を退官される井口道雄教授から、メッセージを寄稿頂きました！

遠い昔の追想

人生の中で65歳から75歳までの10年が最も幸福な時期であるということ、何かの記事で目にしたことがある。その年代に足を一步踏み入れたばかりでその真偽は分らないが、これからは幾分違った世界が広がっているのではとの期待もあって、わくわくする気分で停年を迎えようとしている。

1971年から37年間、理科大の野田キャンパスで研究と教育の場に身を置き、脇道に迷い込むこともなく過ごせたのはありがたいことと思っている。まずはこの記事を目にしている建築学科OB諸君、井口研究室の卒業生をはじめ、これまで支えてくれた多くの方々にお礼を申し上げたい。

かなり前になるが本誌編集者から、退職するにあたって「NAA NEWSLETTER」に寄稿してくれないかと依頼を受けた。卒業生への退職の挨拶替わりになればと思ってお引き受けしたのであるが、他の原稿を2、3抱えながら約束の期日も過ぎてしまい、せっぱ詰まって書き始めたのがこの記事である。古い話を持ち出して気が引けるが、私が建築の道に進み、構造を選ぶに至った昔のことを思い出すままにつづり、退職の挨拶としたい。

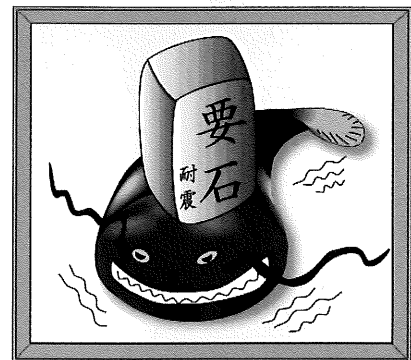
昨今の建築学科新生に建築学科を志願した動機を聞くと、親類縁者に建築関係の人がいるとか、素晴らしい建築を目にして、あるいは悲惨な地震被害を体験してとか、はたまたテレビに登場する建築家の仕事ぶりに憧れてというように、積極的に確固たる意志を持ってこの道を志す者が多い。意識が高く、まことに頼もしい応えが返ってくる。私の場合はどうであったかという、人に語るほどの動機なり決意を持ってこの道に入ったわけではなく、正直そのことに触れるのに躊躇するのであるが、このように話を切り出してしまったからには白状して申し上げる。

今では半世紀も前のことになるが、高校時代は数学が少し得意で、絵画も好きで一時褒められた事があった。大学受験の際、誰に相談することもなく、両方を生かす分野は無いかという、むしろ消去法の論理で辿り着いたのが建築学科であった。正直、決して高い志があつての選択ではなかったのである。ともあれ、早稲田大学の建築学科に入学したのであるが、入った途端にカルチャーショックとも言える衝撃を受けたのを今でも覚えている。周囲の同級生たちの建築に対する意識の高さである。喫茶店で交わされる会話は、当時の流行建築家たちの作品の評であったり、誰その著書であったり、到底話題についてゆけなかった。皆が熱い思いで建築デザイナーになることを夢見ていたのである。そのような環境の中で、知らず

しらず感化され、私も建築学科に入ったからには、の思いから建築デザイナーになることを胸に、すっかり建築家気取りで高田馬場を闊歩した時代がある。休日には、自宅近くの画家のアトリエ通いをしたこともある。菊竹清訓先生のお宅にお邪魔し、当時建築の雑誌に登場し話題を集めていたスカイハウスという名の自宅を見学させて戴いたこともある。分別が少し具わった今は、このような厚顔な真似は到底できない。若いということは実に恐ろしいものである。

当時1年生の授業科目としては計画系・意匠系の科目が多かったこともあり、建築にそれ以外の分野があることなど、視野狭窄に陥っていたのであろうか、まるで気付かなかつたのである。張り子の虎のような中身の無い、俄か仕立てのデザイナー志願など、所詮長続きするはずがなく、またその才が具わっていないことを自覚し、建築デザイナーへの道にあっさり見切りを付けてしまったのである。挫折といえさうであったかもしれない。が、決断のとき、執着してしがみついていることが必ずしも良い判断とは言えないと、今となって思うのです。

学年が進むにつれ、眠っていた左脳が起きだしたのか、次第に“我が道は構造にあり”の思いを強くし、その後は迷うことなく構造一途に今日まで続けている。このことを見ると、構造がよほど性に合っているのかも知れない。3年生の後半には、当時も今日でも名著の誉れが高いTimoshenkoのTheory of Elasticityの原書を、今は亡き友人と読んでいたのであるが、その本は何時でも手の届くところに置いてある。手垢で黒光りしている本を手に、遠い昔を思い起こしている。



井口研ホームページより



井口道雄教授

- 略歴 -

- 1940 東京生まれ
- 1964 早稲田大学理工学部建築学科卒業
- 1966 早稲田大学大学院修士課程修了
- 1969 イタリア留学（イタリア政府奨学生）
- 1970 早稲田大学大学院博士課程退学
- 1970~ 東京理科大学理工学部非常勤講師
- 1971~ 東京理科大学理工学部専任講師
- 1974 工学博士
- 1974~ 東京理科大学理工学部教授
- 1978 Univ. of Calif. San Diego 客員研究員
- 1985~ 東京理科大学理工学部教授

OBからの便り

84年卒OBで、設計事務所を主宰されている神成健さんから、お便りが届きました。

大学を出た時は組織事務所に身をおき、5年くらいで独立し、田舎にもどって牧歌的建築家を目指す予定でいた。バブルにもまれ日本中を駆け回り、意外と仕事も面白く、気がつくと20年も経っていた。約10年かかり箱根にポーラ美術館が完成した。最も大変だったが思い出に残る仕事だ。まじめにやっていると生涯一つくらいいい仕事に巡り会うと感じた。

だんだん仕事の規模が大きくなり、難しい仕事を終えると次にもっと困難な壁が立ちをはかる。とはいえ簡単な設計はしたくないのが困ったところ。ポーラ美術館開館の翌月から東京ミッドタウンを竣工までの4年間担当した。55万m²を1年で設計し33ヶ月で施工するのだ。多くの海外デザイナーとの共同でもあり、まさに24時間戦えますか(古いか?)状態であった。施工図の工事件名にミッドナイトプロジェクトと書いてきた業者もいた。

その中で異色の21_21デザインサイトは、得意な美術館ということもあり、力を注いだ。安藤忠雄、三宅一生、佐藤卓らとのコラボは最高に刺激的だった。

大阪の安藤事務所に通い詰めながら、忘れかけていた設計の面白さを思い出した。個人電話、カラーコピーなどなく、メールも携帯も不可という陸の孤島状態ではありながら、そのオフィスは「建築する」ことに集中する創造の場だった。

「優等生事務所もたまにはデッドボールを投げてみい」との言葉が残る。昨春独立し個人の活動をスタートした。今思うとこれが日建設計からの卒業設計となった。



神成健 (かなりけん)
- 略歴 -
1961 宮城県仙台市生まれ
1984 東京理科大学工学部建築学科卒業 (初見研究室)
1986 同大学院終了
1986~2007 日建設計勤務
2007~ 神成建築計画事務所設立

2007年度 優秀賞受賞者決定!

07年度のNAA賞を含めた優秀賞の受賞者が決定しました。

○本年度の主な受賞者一覧

卒業論文賞 (通年コース)

明間祐作 (北村研)

「力学エネルギー遅延機構による制震ダンパーの模型実験」

笹川拓也, 佐藤佳那子 (武田研)

「オープンプランオフィスの明るさ感推定に関する研究

—被験者実験による明るさ感尺度と説明変数の検討—」

卒業設計賞 水谷隼人 (初見研)

「architecture CITY, or city ARCHITECTURE」

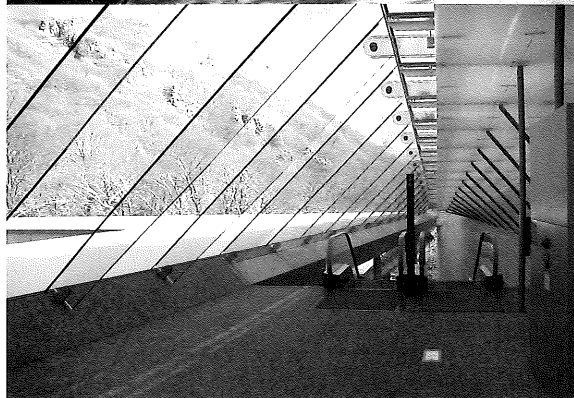
学業優秀賞 吉田正哉 (小嶋研)

修士設計賞 関口貴人 (小嶋研)

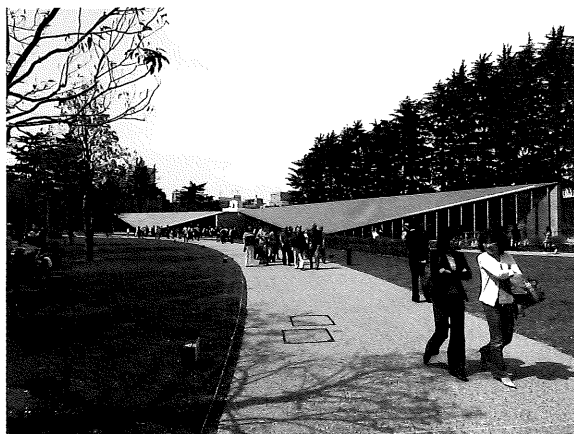
「Resonant Space -Zeche Zollverein Museum-」

修士研究奨励賞 桐田史生 (北村研)

NAA賞 キム・ユナ (初見研)



ポーラ美術館



21_21 デザインサイト

2007 年度 卒業設計結果発表！

2007 年度の卒業設計の講評会が行われ、優秀賞が決定しました。

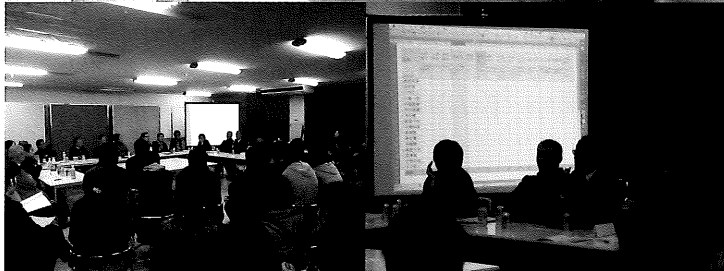
2月16日に、毎年恒例となった卒業設計の公開審査会が行われました。理科大建築学科の卒業設計審査は、1～4年生までの非常勤講師の方々が集まり、学生の前でライブに一等を決定するという、設計で一年に一番盛り上がるイベントとなっています。三等までのセレクションは記名制の投票で行われ、時には講師同士で突然バトルが勃発したりするピリピリした空気の中で行われます。今年も常勤・非常勤含めた多くの講師の方々に来て頂き、白熱した議論が交わされました。

今年の一等は初見研究室の水谷隼人さんが受賞しました。最初の評価はダントツの一位。審査会の議論を経て、優秀賞となった小嶋研究室の堀川君が追撃したが及ばず、見事最優秀賞を勝ち取りました。

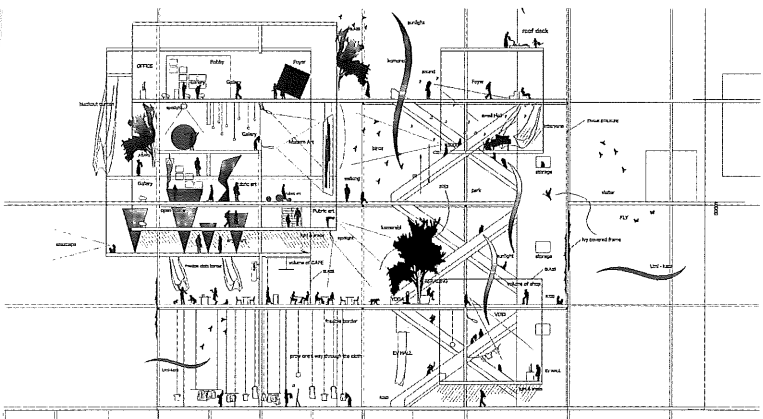
近年では、せんだいメディアテークで開催される「卒業設計日本一決定戦」が卒業設計の大舞台となっています。彼らにとってもこの審査会と共に「せんだい」で入賞することが大きな目標となっていて、多くの学生が毎年エントリーしています。これらの案が仙台でどのような評価が得られるか、注目です！

<受賞コメント・初見研究室 水谷隼人さん>

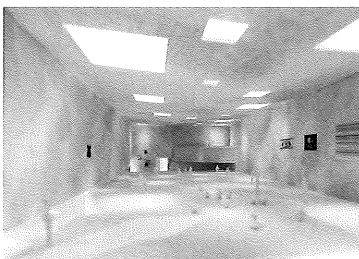
「卒業設計が評価されたことについて、現段階での完成度ではなく、案としての可能性を評価してもらったことが今後の課題の発見につながり、自分の中で非常に有意義なものとなりました。また、卒業設計は都市と建築を等価に考える提案でしたが、今後は建築をもっと自由に考えていきたいと思っています。」



講評会風景



最優秀賞：初見研究室 水谷隼人
architecture CITY, or city ARCHITECTURE—建築都市、あるいは都市建築—
160m 角の立方体を3段階に分割し、都市、建築、部屋の異なる3つのスケールを等価に扱うことで、建築にも都市にもどちらともとれる空間を作る意欲作。公開審査では、立方体の中のヴォリュームがその密度の分布によって透過しているように見える模型が高評価を得た。



優秀賞：神田研究室 高橋玄

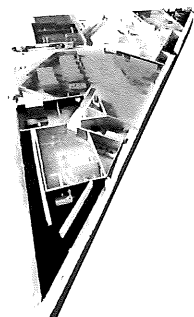
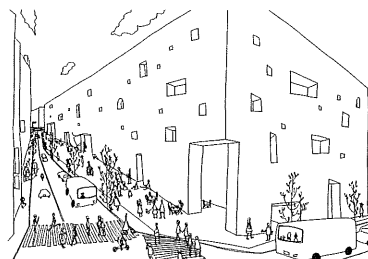
大きな壁と都市の間に

渋谷の商業エリアを敷地とした、幅2mの壁状の住宅と商店との複合的提案。渋谷という街に対する巨大な壁状住居という面白さが評価を得たが、講評会では「住まうこと」に対する意識が問われた。

優秀賞：小嶋研究室 堀川知之

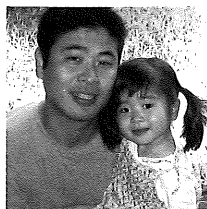
SENSIBLIA MUSEUM

台湾の澎湖諸島の軍用基地があった場所をアート・ビエンナーレの会場として作り替える計画。地形を利用してスペースを埋め込みながら圧倒的なシーンが連続していく。



OB と語る会レポート

昨年12月14日に07年度後期の「OB と語る会」が開かれました。



鈴木啓 (すずきあきら)
 -略歴-
 1969 神奈川県生まれ
 1994 東京理科大学理工学部卒業
 1996 同大学院修了
 1996~ 佐々木睦朗構造計画研究所勤務
 2001~ 池田昌弘建築研究所勤務
 2002 鈴木啓/ASA 設立
 -主な作品-
 塩尻市民交流センター構造設計
 三里屯プロジェクト



浜田亮 (はまだみつる)
 -略歴-
 1976 石川県生まれ
 1999 日本大学理工学部建築学科卒業
 2001 東京理科大学大学院修士課程修了
 2001 One Architecture @Amsterdam 勤務
 2002 Peripheriques @Paris, France 勤務
 2003 Dominique Perrault Architecte 勤務
 2003 STARBURSTAR 設立

いきなり冒頭から私事で恐縮だが、私は今年の3月で理科大の助教を辞める予定だ。これから「独立」という形で新たなスタートを切ることになっている。入学から数えてみると、理科大に在籍している期間はなんと14年間！もう正直うんざりするような長い期間なのだが、それでもこれで晴れて「OB」となる。(とはいっても、来年度から非常勤講師としてもう少しお世話になるのだけれど・・・)

このNAAが主宰する「OB と語る会」も次の助教にバトンタッチする形となるが、担当させて頂いた3年あまりの間にも、様々なOBの方々のプレゼンテーションに触れる機会を頂いた。私にとっては、デザイナーとして立ち立っている方々の生の声を聞く楽しみな時間であったし、その活動にたくさん刺激をもらった。これからは逆に私自身がこの会に呼ばれるような面白いプロダクトを作っていきたい。

さてここから本題。昨年12月14日に「OB と語る会」の後期分が開催された。今回は94年卒で構造家の鈴木啓さんと01年大学院卒の浜田亮さんのお二方である。鈴木さんは佐々木睦朗さんと池田昌弘さんの二つの構造事務所を経て独立。現在は様々な仕事を手がけられている新鋭の構造家である。浜田さんはドミニク・ペロー事務所等、海外の事務所を経て独立。現在は自分での活動を行いつつ、小嶋一浩氏との共同プロジェクト等も行っている若手建築家だ。今回もお二方共にあまり普段見ることが出来ない面白いスライド・ショーとなった。

鈴木さんのスライドは、佐々木事務所の時に担当されたせんだいメディアテークの現場写真から始まった。大学院を卒業したばかりの夏に、突然佐々木さんから太田市区民休養村とうぶ(伊東豊雄設計)の現場に張り付くように命じられたそうだ。当然右も左もわからない状態でのいきなりの現場。構造設計の現場でも、最初から実践でのトレーニングが行われるという興味深いエピソードであった。また、他の竣工物件でスタディした方法を「せんだい」で生かすといった現場ならではの話がなされた。

独立した後の作品集もいくつか紹介された。「輪の家」では、柱がないように見える不思議な構造が、どのようにして生まれていったのかを解説。膨大な仕事量の中で様々な構造のアイデアが実現されており、普段学生には伝わりにくい構造の面白さが伝わったと思う。

浜田さんからは事前に、プレゼンテーションではスピーカーを設置するようにいわれていた。またなにかやらかすんじゃないかと期待していたが、期待通り。大音量の音楽のリズムに回答するように様々なプロジェクトや旅行記録がノリノリで紹介された。プレゼンテーションは彼が卒業から現在まで行ってきたプロジェクトが中心であったが、中でも「26countrys 260Days」と題された、彼がコンペの賞金で勝ち取った26カ国260日の世界旅行が非常に面白い。

最初に現れるスライドは世界地図。アジア、北欧、中南米など彼が訪れた国々が広範囲にマーキングされている。とにかく出てくるスライド一つ一つが圧倒的な迫力だ。マチュピチュやグアテマラ、アイルランドのストーンヘッジ、マラケシの広場、ポリビアの塩水で固まった湖など、明日にでも飛行機に飛び乗りたいと思うほど豊かな風景がそこにはあった。それらの写真は旅先で描いた彼の印象的なスケッチと共に紹介された。写真ではなくスケッチを描くことで、そこでの印象、何に感動したかを脳内で整理し、記憶していったそうだ。

後のパーティで「建築家の建物は見て回ったか？」の問いに対して、『『現代』建築はコルビュジェやバラガンくらいしか見てないかなあ』と答えたコメントが印象的であった。つまり彼が見て回った遺跡群のスパンで考えると、近代も現代も同じく「現在」なのだ。そうした建築を見る深度、視野角の広さが旅行で得た大きな経験であったのであろう。

レクチャー後のパーティでも学生からOBのお二方への質問が止むことはなかった。この「OB と語る会」も今では学生の間で認知されつつあると感じている。(佐貫大輔 小嶋研究室助教)



プレゼンテーション風景
 会場では1年生を中心に約80名の学生が熱心に耳を傾けた



左 輪の家
 上 せんだいメディアテーク
 下 塩尻市民交流センター



左 Porous drape
 上 ポリビア ウェニ
 下 森の火葬場

柏の葉ナイトピクニックが開催されました！

2007年10月14日、千葉県柏市で「柏の葉ナイトピクニック」が開催されました。一般にピクニックといえば昼間に野原で食事をするイメージですが、このイベントでは街中のオープンスペースを活用しました。

会場は千葉大学（柏の葉キャンパス）で、高校生や周辺住民から通り道として親しまれています。今回は普段通り過ぎるだけだった空間に目を向け、人通りの少ない夜に小さな明かり「ガラスの花」を灯したナイトピクニックを開催しました。

当日、隣接する高校の高校生や近所の大学生・周辺住民・通りすがりの飛び込み参加など多様な顔ぶれが集まりました。道沿いに長い長方形のラグと丸いラグが交互に敷かれ、それぞれ思い思いの場所で持ち寄った食事を広げピクニックが始まりました。夕暮れからだんだん暗くなっていくなかで、ワインやシャンパン、サンドイッチなどをはさんで会話も弾み、普段は通り過ぎるだけだった空間がくつろいでおしゃべりを楽しめる場となりました。途中コンサートも行なわれ、綺麗な歌の調べが響きました。

またナイトピクニックの明かりを演出したのは小さなガラスの灯り「ガラスの花」です。志村真紀氏（横浜国立大学・講師）の協力の下ワークショップを行い、各家庭から出た廃ビン・ガラスを持ち寄って作られ、実験的に植えられました。あたりが暗くなりだすころ「ガラスの花」はそっと光りはじめ、ナイトピクニックの雰囲気盛り上げてくれました。

（伊藤研究室 M2 伊藤桃子）

柏の葉ピクニッククラブ <http://www.kpc.jpn.org/>



上 ガラスの花
中 ガラスの花設置風景
下 ナイトピクニック風景
（写真提供：伊藤研究室）

会費納入のお願い

現在、東京理科大学野田建築会会則に則り、平成20年度普通会員の年会費（平成20年4月1日から平成21年3月31日）¥3,000円を徴収しております。会費は会報の発行・OBと語る会の開催・NAAサイトの運営・見学会の開催・NAA賞の授与など、有効に使われております。

当会の発展と活動の進展を期すために、本年度会費を是非とも納入いただくようお願いいたします。つきましては、会費納入のための郵便振替用紙を同封致します。なお振込みの際、封筒の宛名ラベルに記載されているID番号の通信欄への記入をお願い致します。

NAAサイトからのお知らせ

皆様、サイトのご利用ありがとうございます。おかげさまで、今年度はメールマガジンの発行を週一回のペースで行うことができました。内容は大学の研究室が月替わりで担当してトピックスをたてており、特色のある話題をお伝えしております。来年度もさらにバージョンアップしたメールマガジンを目指していきたいと思っております。NAAでは個人情報保護の点から名簿の発行を取りやめましたので、それに変わるツールとしてサイトを利用した情報交換を行っております。まだ、登録されていない方はお早めに登録いただくようお願いいたします。

NAAサイト：<http://www.rikadaikenchiku.com/>

さて、卒業や進学にあたって、メールアドレスの変更も多い季節です。サイトの登録時のアドレスが変更になる方は、変更の手続きをお忘れなくお願いいたします。方法は2通りあります。一つはサイトにアクセスしていただいて、ログインした後に、プロフィールの編集欄からご自分で変更可能です。もう一つはサイトのネット事務局宛にアドレスが変更になった旨をメールにてご連絡いただければ事務局サイドで変更いたします。

NAA ネット事務局：rikadaikenchiku@yahoo.co.jp

<編集後記>

今回の表紙は退官される井口先生です。撮影は小嶋研究室の大学院生、アルフレッド君によるものです。先生も最初は表情が硬かったのですが、何度も撮っていくうちに次第にノリノリに（笑）。

さて、次の号からは、編集者が佐貫から次の担当者へと交代する予定です。どのようになるか楽しみです。

2008年3月19日
春号 - Vol.19
編集：会報部会
（佐貫大輔・小園涼子）

編集委員：有岡三恵・小園涼子・佐貫大輔・周藤正信・高安重一・千葉利彦・前田智成・横山圭（50音順）

発行 東京理科大学野田建築会 〒278-8510 千葉県野田市山崎 2641
<http://www.rikadaikenchiku.com/>
郵便振替 口座番号 00130-9-27644 東京理科大学野田建築会

